

営農のしおり

ばか苗病の発生防止について

近年、管内において「ばか苗病」の発生が増加傾向にありましたが、昨年より細部にわたり防除対策を行った結果、発生を大幅に減少させることができました。今年も引き続き下記の点に注意して「ばか苗病」発生ゼロを目指しましょう。

■種子消毒剤の見直し

昨年、県内でスポルタック剤の成分に耐性のあるばか苗病菌が確認されました。防除効果の低下がみられる場合にはスポルタック乳剤からテクリードCフロアブルへ薬剤を変更しましょう。

■温度管理の徹底

種子消毒、浸種の開始は水温10℃～15℃を確保できるように早くても3月26日頃からとし、水温が15℃を超えないよう屋内または日陰で行いましょう。浸種時の積算温度は120℃を目安とし、必要以上に長くしないようにしましょう。

催芽時は温度計を設置し、温度が30℃～32℃となるよう努めましょう。

育苗期間中は苗の生育ステージに合わせた温度管理に努めましょう。特に育苗ベタ張り期間が長くなると発生のリスクが高まります。

■周辺環境の整備

稲わらや籾殻、粉塵などは「ばか苗病」の感染源とな

ります。作業場所から撤去し、機械・容器の洗浄を行いましょう。前年にばか苗病が発生した場合、「イチバン」で消毒しましょう。（500～1000倍で瞬時浸漬または散布）

■チェックリストの活用を

種子の配布に合わせ、ばか苗対策チェックリストが配布されます。作業に合わせてチェックリストを確認し、発生防止に努めましょう。

酒田みなみ営農課 大井 翼



▲作業手順を確認し、健苗育成に努めましょう

園芸だより

春ねぎの導入と 長ねぎ周年栽培に向けて



●定植と収穫時期

6月
下旬～7月上旬ころに定植
します。収穫時期は冬を越え
翌年の5月下旬です。

●抽苔時期の予測

抽苔とは、日長などが原因で花芽が作られ、花茎が伸長することです。ねぎでは、抽苔によりねぎ坊主の発生と食味の低下が起ります。抽苔時期の予測は、5月上旬ころに試し掘りしたねぎを縦に切り、ねぎ坊主の上に何枚葉があるか確認します。1枚展開するのに7日～10日、2枚で14日～20日、3枚で21日～30日ほどかかります。

●管理のポイント

収穫時期にはベト病が出やすいため、早めの予防防除を徹底しましょう。晩抽性品種ですが抽苔するので、定植時期までに仕上げて計画的な収穫を行ってください。肥料切れは抽苔を早めます。健全な根で良好な生育を心掛けましょう。

春ねぎ栽培のポイント

●使用品種と播種時期 晩抽性品種を使用し、6月上旬ころに播種します。

育苗中は高温や乾燥に注意しましょう。

現在は春ねぎの「羽緑一本ねぎ」を中心に栽培していますが、最近では種苗メーカーが新品種を開発しています。

管内では数品種試験栽培を行っており、平成30年春に試験結果を踏まえ、品種検討報告を行う予定です。

一番のポイントは、計3回行う土寄せを冬までに2回行っておくなど越冬前に全体の7割～8割の生育を行うことです。「坊主不知ねぎ」については、平成29年度より県酒田農業技術普及課と栽培体系の確立に向けて試験栽培中となっていますので途中経過を含め今後、情報提供を行っていきます。

園芸課 庄司 功